

平成28年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	6%	88%	6%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	18%	76%	6%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	18%	70%	12%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	12%	70%	18%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	6%	70%	24%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	18%	70%	12%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	24%	64%	12%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	0%	82%	18%	0%

「園の教育方針等の理解」の項目では、「よく出来ている」（以下、「A評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B評価」という。）を合わせて94%となっている。「教育課程の編成」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて94%、「指導計画の作成」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて88%となっており、前年より教育課程の編成において16ポイント、指導計画の作成において12ポイント「A評価」と「B評価」の合計が上がった。一方で「あまり出来ていない」（以下、「C評価」という。）と答えているものが12%いることから、こうした職員への指導・支援体制をしっかりと行っていく必要がある。

また、「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は約84%であった。ただ、「C評価」と自己評価した者も平均16%程おり、今後は「A評価」を目指して努力をしていく必要がある。「評価・反省」の項目では、「B評価」が82%であり、「環境の構成」の項目同様、今後は「A評価」を目指して努力を重ねていく必要がある。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	30%	70%	0%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	35%	53%	12%	0%

幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	6%	88%	6%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	6%	82%	12%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	12%	82%	6%	0%
指導との関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	18%	82%	0%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	41%	59%	0%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	6%	88%	6%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	6%	88%	6%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	29%	59%	12%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	53%	41%	6%	0%

「健康と安全への配慮」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均94%であり、「健康と安全への取組」が教職員の意識にもかなり浸透していることが窺える。今後も、より園内の清掃や整理整頓は徹底していきたい。

また、「幼児理解」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均91%であり、教職員は幼児理解の重要性を感じて努力しているものと思われる。一方で、「C評価」と自己評価した者への指導・支援体制を整え改善していかなければならない。

「指導との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均97%であり、幼児への関わりを重視しながら保育に当たっていることが窺える。「保育者同士の協力・連携」の項目では、「クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がけているか」の問いは、「A評価」と「B評価」を合わせて88%、「幼児について保育者同士で話し合い、共通理解を図っているか」の問いには「A評価」と「B評価」を合わせて94%であり、教職員全体で協力・連携体制が取れていることが窺える。その上で、「B評価」の割合が高いことから、今後は「A評価」を目指して努力を重ねていく必要がある。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	18%	82%	0%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	41%	53%	6%	0%
要望等への処理の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	35%	65%	0%	0%

「情報の発信と受信」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて100%であり、保護者からの相談や要望には心を開いてよく話を聞くように心がけていると思われる。また、「対応上の心がまえ」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせて94%であり、保護者からの依頼や伝言にはきちんと対応するように心がけていることが窺える。

さらに「要望等への処理の仕方」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせて100%であり、要望等の内容に

よっては教職員全体で検討し、共通理解した上で対処していることが窺える。一方で、「C評価」と自己評価した者がいることについては、改善していかなければならない。

IV 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	12%	59%	29%	0%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	0%	35%	35%	30%
子育て支援と地域への開放	子育ての支援や地域への開放に努めている	12%	35%	24%	29%

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、前年は「B評価」53%、「C評価」と「D評価」を合わせて47%であったところから、本年は「A評価」と「B評価」を合わせて71%へと向上した。これは、近隣の公園へ出掛ける機会や園外保育が1回増加したことから理解が進んだことが窺える。また「C評価」が29%であることから、更に地域等の関わりに理解を深めるよう努力する。

また、「小学校との連携」の項目でも、前年は「B評価」が7%、「C評価」・「D評価」と答えた者は合わせて93%と小学校との連携は担当学年によって左右されることが窺えたが、本年は「B評価」が35%に向上した。これは、豊が丘小学校6年生の児童が幼稚園を訪問してくれたことが評価に繋がったと窺える。「子育て支援と地域への開放」の項目では、前年の「B評価」30%、「C評価」・「D評価」が合計70%であったところから、本年は「A評価」・「B評価」を合わせて47%へと向上した。子育て支援や地域への園開放に携わる教職員は特定のものに限られているとの意識から、捉え方が変化してきたことが窺える。

今後も、子育て支援の充実と地域との連携をより図るため、地域や自然や社会との関わりを教職員全体で考えていく必要がある。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	18%	41%	29%	12%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	17%	59%	12%	12%

「研修・研究への意欲・態度」の項目では、「研修会や研究会には自己の課題をもって参加しているか」の問いに「A評価」と「B評価」と答えた者は前年より9%増加した。一方で、「C評価」と「D評価」と答えた者も合わせて41%おり、研修会・研究会に参加する機会の確保またその体制作りにも努めていく必要がある。

また、「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには「A評価」と「B評価」と答えた者は前年より9%減少し、「C評価」「D評価」の者が24%いることを考えると、教職員間の相談体制の充実に一層努めていく必要がある。